

3 地区全体会議（第4四半期）

農福連携マッチング等支援事業 成果報告資料（平塚地域）

令和5（2023）年3月20日（月）

特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

理事長

坂田 美保子

理事

長谷川 正幸

プロジェクトマネージャー

関谷 育雄

1 平塚地域の特色

(1) 農業面

神奈川県下有数の農業の盛んな都市

- 相模川と金目川の下流域に発達した平野と丘陵地
- 神奈川県下1位の生産量を誇る稲作や酪農、養豚を中心とした畜産業、地の利を生かした形の野菜生産
- 認定農業者（経営規模の拡大や労働条件の改善を目指す）は県下第3位の220経営体（平成29年3月31日現在）
- 「湘南地域担い手育成総合支援協議会」認定農業者のサポート、農業の活性化を図っている。

農家世帯数	1671戸	専業農家 比率 24.6%
専業	411戸	
兼業	670戸	
自給的	590戸	

農業就業人口	1,891人
男	983人
女	908人

(2015世界農林業センサス)

田	畑	樹園地	計		
622 ヘクタール	385 ヘクタール	27 ヘクタール	1,034 ヘクタール		
水稻	きゅうり	トマト	小松菜	ほうれんそう	里いも
平成27年 2,780トン	平成18年 3,030トン	平成18年 930トン	平成18年 979トン	平成18年 662トン	平成18年 961トン

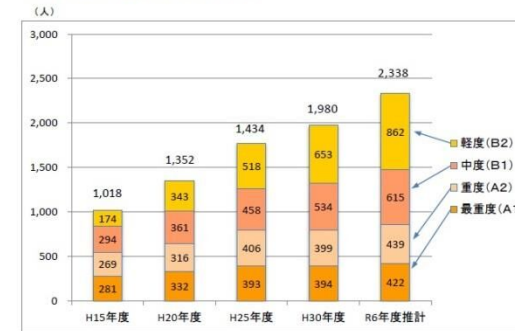
(2) 障がい福祉面

平塚市障がい福祉課調べ（H31年3月31日現在）

	全国	平塚市
身体障がい者	4,360,000人	8,138人
知的障がい者	1,082,000	1,980人
精神障がい者	4,193,000人	4,591人
合計	9,635,000人	14,709人
総人口比	7.6%	5.7%

(全国) 令和元年版障害者白書、平成31年4月総務省統計局人口推計月報

◇ 平塚市の知的障がい者人口の推移



資料：平塚市障がい福祉課調べ

◇ 平塚市の精神障害者保健福祉手帳取得者の推移



資料：平塚市障がい福祉課調べ

(2) 特別支援学校卒業者の進路

平成30年度に、本市に在住する障がい者で、特別支援学校の高等部を卒業した方の進路は、次のとおりです。

◇ 特別支援学校高等部卒業者の進路

一般就労	施設通所	施設入所	進学	在宅	その他	合計
17人	18人	1人	1人	1人	2人	40人

資料：神奈川県教育局支援部特別支援教育課調べ（平成30年度実績）

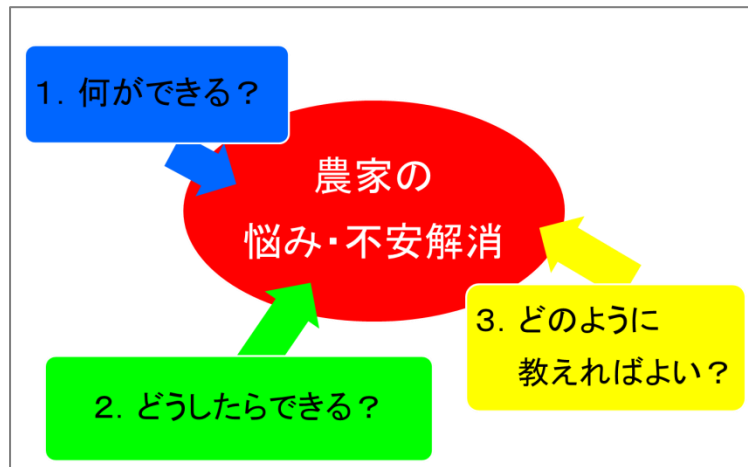
2 農福連携を進める上での課題、その対応策

※R3.6.26 コーディネーター養成講座にて
島根県農業技術センター 技術普及部 宮廻克己様の資料抜粋

(1) コーディネーターの位置付けと役割、事業終了後のコーディネーターの立ち位置

(2) 受け入れ可能な農家がどの程度あるかどうか

(1) 農業者への対応



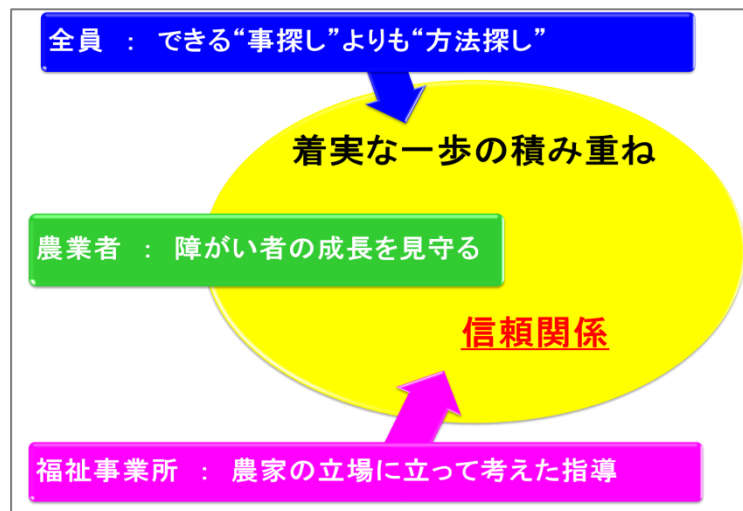
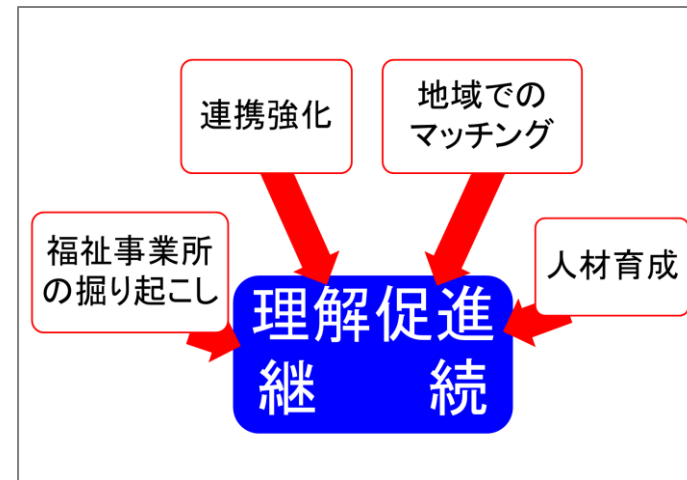
(2) 障がい者支援施設への対応

- ※ 障がいのある人の伸びしろは大きい！
「隠された力」「埋もれた可能性」は、職員の想像をはるかに超えている！
- ※ どんなに頑張っても 事業所の中でできることには限界がある！

- ・外部の方と関わることで「働く力」が身につく
- ・作業工程を分解すれば、仕事がたくさんある
- ・作物が育つ過程・収穫の喜びを感じ、人も育つ

農の福祉力

(3) 残された課題



障がいのある人達が
「地域の戦力」となるために

① 障がいのある人達のチャレンジの場を！

② 職員にも学びの場・チャレンジの場を！

地域の農業と農村
地域の障がい者を支える
大きな力に！



ゆっくりでも、続ける！

3 令和4年度 農福連携マッチング等支援事業 事業計画（平塚地域）

【目的】

障がい者の就労機会の確保・工賃向上、農業の担い手の確保という課題を解決するため、農福連携の推進を通じて、「誰もが支え合い、受け入れ合う持続可能な共生社会の実現」を図ることを目的とする。

【事業期間】

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで
(令和4年度までの事業)

【年度目標及び見込み件数】

令和4年度：コーディネーター養成12名
(令和2年・3年度のコーディネーターを対象とする)
就労機会の創出(延べ日数) 150日、マッチング件数5件

【想定とする参加者】

農業関係者及び障がい者福祉関係者、興味のある市民



【予算】 1,254,000円

【事業内容】

湘南NPOサポートセンターは、神奈川県・平塚市・JA湘南と連携・協働し、誰もが支え合い、受け入れ合う持続可能な共生社会の実現に向けて、以下の農福連携マッチング等支援事業を行う。

- (1)農福連携コーディネーター人材育成研修講座の開催
第1回：令和4年5～6月
第2回：令和4年6～7月
 - (2)農福連携コーディネーター情報交換会の開催
(適宜)
 - (3)農福連携の先進事例の視察（スタディツアー）実施
(11月)
 - (4)障がい福祉サービス事業所・社会福祉法人・障がい者を雇用する企業等と、農業者とのマッチングの場づくり（年間を通して適宜）
 - (5)農福連携コーディネーターの派遣に関する事務
(適宜)
- ※イベントは農家の一般的な農繁期及び障がい者施設の催事時期を避けて実施

4 令和4年度 農福連携コーディネーター養成講座（2回連続講座）

<p>(1)第1回5月14(土) 14:00～16:30 「農福連携の実践事例と平塚市における今後の展望について」</p>	<p>講師：加藤 貴一氏 (JOBコーチ) 新井 亮祐氏 (株式会社てしお夢ふぁーむマネージャー)</p>	<p>参加者：27名（一般参加15名） 就労継続支援A型の特例子会社が農園経営モデルで農福連携に取り組んだ事例と、関東近郊で農福連携をさらに推進するための現状と課題について言及。土地取得段階で高ハードル。何をしてもらおうではなく、何ができるか、何をするかを引き続き模索していく。</p>	
<p>(2)第2回6月18(土) 14:00～16:00 「農福連携コーディネーターの仕事 ー理想に近づくためにー」</p> <p>※講演はオンラインで実施。</p>	<p>講師：濱田 健司氏 東海大学教授・前一般社団法人JA共済総合研究所主任研究員</p>	<p>参加者：24名（一般参加15名） 農福連携は農業における労働力不足と、障がい者の新たな就労の場の開拓という、両者の課題解決を背景に発足した。⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> * 農福連携から農福商工連携へ * 教育・体験などを提供する新しい農業 * 地域で共に生き、助け合う社会の実現 	

※2回の講座で6名が新コーディネーターとして登録した。

※令和2年度3名、3年度10名 4年度6名+1名(前年度未登録者) 計20名の登録

●農福連携コーディネーター情報交換会

R4. 3.17：5名 オンライン会議

R4. 4.27：3名 オンライン会議

R4. 5.14：6名 第1回コーディネーター養成講座

R4. 6.18：5名 第2回コーディネーター養成講座

R4. 9. 4：9名 オンライン会議

R4.11.23: 5名 オンライン会議

適宜**LINE**による情報交換

○次の行動のヒントが得られ、モチベーションアップに繋がった。

▼会議の時間設定が難しい

▼オンライン会議のZoom操作の壁

▼コーディネーターの仕事内容が現実的に厳しい

例 土日は福祉事業所は休みであるため、休日を活用しづらい
農家や福祉作業所の実態は十人十色であり、対応が難しい
ほぼボランティアとして動ける範囲は限定的 等

4 令和4年度 マッチングの場づくりについて

昨年度は12月に市民活動センターを会場にして、農業関係者と福祉事業者及びコーディネーターが一同に会して実施したが、特に農業従事者の参加が少なく成果が限定的であった。その要因の一つには、農福連携の理解がまだまだ周知されていないことが考えられる。そこで、本年度は以下のような体制で臨んだ。

時期：年間を通して適宜

方法：**コーディネーターやJA湘南などからの情報をもとに各福祉施設と連絡を取り合い**、まずトライアルや研修を実施する。その後、作業内容や作業場所（農場・福祉施設・等）、対価等について具体的な内容について詰めていく。

その他

1月（予定）にマッチングの事例報告会を開催し、取り組みの成果を共有するとともに今後の事業の展開について意見交換をしていく。

対象：JA湘南TAC職員、農業従事者、各福祉施設職員、農福連携コーディネーター

令和4年度 農福連携フォーラムの開催

これまでの取組みを通して、様々な農福連携の在り方を模索してきた。

- 定期的（週〇回、△月～◇月、等）な就労（湘南小巻ファーム、草川農家、岩田農園）
- トライアル、農業体験（いかす農園、farm303、高橋花園）
- 農地を障がい者福祉施設が耕作する。（関谷農園）
- 加工商品（岩田農園）

そこで、農福連携を実践している農家・福祉施設、コーディネーターがこれまでの成果を発表し合い、今後の事業の展開やJA・行政等との連携について意見交換の場を設けた。農福連携フォーラムは、マッチングの場でもあったことから日常的な場づくりに加えて開催した。

日時：1月28日（土）14：00～16：30

方法：①基調提案：農福連携の成果と課題
講師：東海大学教授 濱田健司氏

- ②パネルディスカッション（各パネリストは、自己紹介後に簡単に実績を紹介）
- ③参加者との質疑応答・情報交換
- ④まとめ ※農業者と福祉事業者とのマッチングの場を設ける

対象：①農福連携に関心のある農家、障がい者支援団体等
②JA湘南職員（TAC職員他）
③平塚市農水課・障がい福祉課職員
④神奈川県子どもみらい共生推進本部室職員

参加者総数：50名



日時 令和5年1月28日（土） 14:00～16:30

場所 ひらつか市民活動センターAB会議室（平塚市見附町1-8）

- 内容
- (1)基調提案
農福連携の在り方 ～農家と障がい者福祉事業所がWinWinの関係に！～
講師：濱田健司氏（東海大学教授）
 - (2)パネルディスカッション
【農業者】
湘南小巻ファーム（小巻氏） 岩田農園（岩田氏） 草川農家（草川氏） 関谷農園（関谷氏）
【障がい福祉サービス事業所】
NPO法人神奈川県障害者自立生活支援センター（キルクももはま）（榎野氏）
みんなの家ミミ（尾立氏） スタジオ・ワーク（関根氏）
【農福連携コーディネーター】
岩田氏 伊藤氏 荒川氏
 - (3)質疑応答・情報交換

参加費 無料

対象 農福連携に関心のある農家、障がい者支援団体（農福連携に関心のある個人・団体も可）

申込み・問合先 NPO法人 湘南NPOサポートセンター
※裏面の申し込み記入欄をご確認の上、電話・メール、又はFAXにてお申込みください。

TEL 070-6662-2455 FAX 0463-35-7736

E-mail shonan@snposc.org

主催：神奈川県・NPO法人 湘南NPOサポートセンター 共催：平塚市 特別協力：JA湘南

- ・濱田健司氏による基調講演「農福連携の意義とこれから」では、初めて参加された方からこれからの農福連携の在り方を考えている方まで理解が深まる内容で講演していただいた。
- ・パネルディスカッションは、農福連携にいろいろな形式で取り組んでいる事例を紹介した。
- ・終了後も名刺交換・情報交換を行っている姿があちらこちらで見られ、今後のマッチングにも期待が持てた。



□事例紹介

③「草川農家」と「キルクももはま」の農福連携

【特徴】

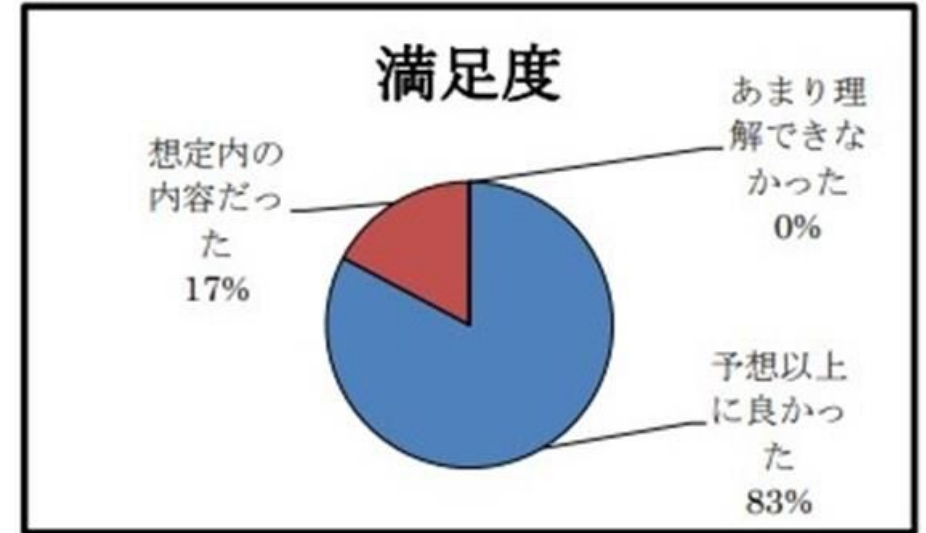
- ・高齢農家のサツマイモの収穫期に行われている例。
- ・収穫物を福祉施設の作業所に運び、作業所で袋詰め等の作業をし、農協の集荷場まで運搬も担っている。



<参加者からのアンケートより>

- ・農福連携のイメージが良くなった。濱田先生の話しが良かった。実践例がたくさんあって良かった。成果と課題がわかった。
- ・農福連携マッチング等事業について、現在3地区で実施されている。この取組を県内各地域で広がっていくと良いと思う。行政側として、農政部局にも積極的に参画していただきたい。これからも農福連携に積極的に関わっていきたいと感じている。
- ・大変勉強になりました。福祉事業所の取り組みの現状とメリットがあり、これから解決に向けた幅広い取り組みが必要だと強く感じた。
- ・具体例と現状が良く分かりました。今後県域全体で広げていただきたい取り組みと思います。
- ・今後もこのようなフォーラムをやってほしい。

等々多くの感想をいただくことができましたが、今後の課題の解決に向けた幅広い取り組みの必要性を感じました。



5 令和4年度 農福連携スタディツアー

3 月 7 日 (火) 9 時 〜 13 時	①宮村農園 秦野市北矢名	<ul style="list-style-type: none"> ポイント① 就労支援施設との連携で利用者みなさんにみかんの収穫、剪定、保存のために保管庫へ運ぶなど、秋から冬にかけて作業をお願いしている。 ポイント② 障がい者にマッチした無理のない作業工程と丁寧な指導
	②柏農園 平塚市南金目	<ul style="list-style-type: none"> ポイント① 農福連携で農業を活性化したい ポイント② 効率的な農業実践
	③みんなの家ミミ 秦野市曾屋	<ul style="list-style-type: none"> ポイント① 障がい者の就労の場として適した立地と設備 ポイント② バランスの取れた農業と福祉の在り方

行程表

日次	月日	行程表				
1	3/7 (火)	農協ビル前 平塚駅南口 8:45配車/9:00出発	秦)北矢名1054-25 ①宮村農園 9:30~10:00	平)金目67 ②柏農園 10:20~10:50	秦)曾屋4508-10 ③みんなの家ミミ 11:20~12:00	平)岡崎500 ④関谷農園 12:30~13:00
		発地 13:30頃到着予定				
		マイクロバス1台 実車距離:43.2KM/総走行距離:55.7KM 実車時間:4時間00分/総走行時間:5時間15分				



宮村農園のみかんの収穫



柏農場で土木作業も行います



みんなの家の前に広がる畑

※参加者アンケート結果（抜粋）

- ・宮村さんの説明が分かりやすく、農福双方がお互いに思い合って作業できていることが伝わりました。鬱などから回復につながった事例など具体的なお話が聞けてよかったです。
- ・ミスやロスを無くすこと、コミュニケーションの取り方など。無理せず一人一人に合う内容、作業を考えていらしてスゴイ。行政―農家―福祉がしっかり連携してしているなという参考事例。
- ・「利用者さんに楽しんでもらう」という強い思いを足立さんが持っていらっしゃって、様々無理し過ぎないように展開されているのが印象的でした。
- ・驚きがたくさんありました。人と一緒に農業をやっていききたいとの思いや、新たなテクノロジーや技術を積極的に取り入れる姿勢がととてもすばらしかったです。

6 令和4年度の取り組みの実績（3月16日現在）

(1) コーディネーターの派遣

月	延べ人数	派遣日	派遣場所
4	2	4/6、4/12	いかす農園、はーとふる農園愛川
5	3	5/11、5/18	いかす農園、せきや農園、田村地区水利組合(ジャンボタニシ駆除)
6	2	6/14、6/16	岩田農園、farm330
7	2	7/13、7/29	田村地区用水路(ジャンボタニシ駆除) 岩田農園
8	2	8/9、8/24	岩田農園、高橋花園
9	0		
10	0		
11	1	11/28	キルクももはま
12	2	12/2、12/8	キルクももはま
1	0		
2	0		
3	0		
計	14		

- ▼コーディネーター
新規登録者数
7名(合計20名)
※8月に追加
- ▼派遣回数
14回

(2) 新規就労者数 (延べ日数・人数)

月	日数	延べ人数	農業者	障がい福祉サービス事業所等
4	12	38	いかす農園、せきや農園	スタジオ・クーカ ※トライアル
5	16	52	いかす農園、せきや農園	スタジオ・クーカ
6	20	67	いかす農園、せきや農園、Farm330	スタジオ・クーカ、茅ヶ崎プレーナ湘南 ※トライアル
7	17	41	いかす農園、せきや農園	スタジオ・クーカ、
8	12	40	いかす農園、せきや農園、湘南小巻ファーム、岩田農園	スタジオ・クーカ、キルクももはま、みんなの家ミミ
9	14	46	いかす農園、せきや農園、湘南小巻ファーム、岩田農園、草川農家	スタジオ・クーカ、キルクももはま、みんなの家ミミ
10	10	33	いかす農園、せきや農園、湘南小巻ファーム、岩田農園、草川農家	スタジオ・クーカ、キルクももはま、みんなの家ミミ
11	25	79	いかす農園、せきや農園、湘南小巻ファーム、岩田農園、草川農家	スタジオ・クーカ、キルクももはま、みんなの家ミミ
12	12	39	いかす農園、せきや農園、湘南小巻ファーム、岩田農園、草川農家	スタジオ・クーカ、キルクももはま、みんなの家ミミ
1	10	34	いかす農園、せきや農園、湘南小巻ファーム、岩田農園、草川農家	スタジオ・クーカ、キルクももはま、みんなの家ミミ
2	14	60	いかす農園、せきや農園、湘南小巻ファーム、柏農園	スタジオ・クーカ、みんなの家ミミ
3	9	35	いかす農園、せきや農園、湘南小巻ファーム、柏農園	スタジオ・クーカ、みんなの家ミミ
計	171	564		

 ▼新規就労日数
171日

 ▼延べ人数
564人

(3) マッチング件数

月	件数	農業者	障がい福祉サービス事業所等
4	1	いかす農園	スタジオ・クーカ ※トライアル
5	1	せきや農園	スタジオ・クーカ
6	2	岩田農園、farm330	キルクももはま、 茅ヶ崎プレーナ湘南 ※トライアル
7			
8			
9	1	小宮農園	キルクももはま
10	1	高橋花園	はたらっくひらつか※体験実習
11	1	岩田農園	はたらっくひらつか ※職員がジョブコーチの実習
12			
1			
2	1	せきや農園	グランデ平塚
3			
計	8		

 ▼新規マッチング件数
8件

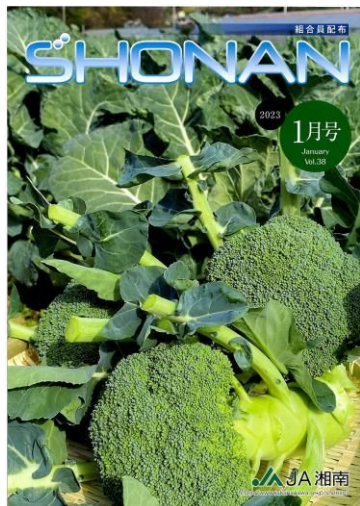
※まだ正式にはマッチングされていませんが、以下の農家・福祉事業所との話が進んでいます。

△大森農家が50アールの畑でコマツナを栽培し、福祉事業所に依頼希望。

△山田及び笹尾農家が空心菜の袋詰めを福祉事業所に依頼希望

7 その他（啓蒙活動）

・JA湘南の機関紙【SHONAN】で、福祉事業所「キルクももはま」やFarm 3 3 0（笹尾農家）が農福連携の取組みで紹介されました。



▲ネギの出荷作業に取り組む利用者

「旬の農産物の出荷作業に携わることで、季節や自然を感じることで、食育にもつながっている。地元農家さんの協力によって、利用者も楽しく農作業に取り組むことができている」と話します。

管理者の椎野淳子さんは「旬の農産物の出荷作業に携わることで、季節や自然を感じることで、食育にもつながっている。地元農家さんの協力によって、利用者も楽しく農作業に取り組むことができている」と話します。

2022年は、サツマイモや空心菜、ネギの出荷作業を実施。ネギの袋詰めや皮むき、調整などは12月末時点で35人の登録利用者が交代で行いました。事業所の職員と利用者は、各生産者のほ場に農産物を引き受けに出向き、事業所で3〜4人の利用者が作業にあたります。終了後には、梱包した農産物をJA平塚営農経済センターへ持ち込み、出荷しています。

就労継続支援B型「キルクももはま」

平塚市桃浜町の福祉事業所「キルクももはま」では、同市内の農家数件と委託契約を結び、収穫後の農産物の出荷作業などに取り組んでいます。

契約前には、事業所職員や利用者が生産者の元へ出向き、作業方法や手順などを確認する打ち合わせ

を実施。細かい部分は農業福祉の両面の知識を持つ農福連携コーディネーターを通じて生産者と話し合いながら、利用者に分かりやすく伝わるように努めています。

農業と福祉の連携へ

笹尾さんは、農業と福祉の連携にも着手しています。昨年は、6月と11月に福祉施設の利用者を受け入れ、農産物の収穫や袋詰め作業などを一緒に行いました。「農作業を通じて成功体験を重ねることで、利用者の方の自信につながってほしい。今後も受け入れを継続していきたい」と話します。

平塚市大野地区

笹尾 美香さん 露地野菜



約50㎡の畑で、大野地区に伝わるサツマイモのクリマサリをはじめ、ニンジンやレタスなど、年間約40品目を栽培している笹尾さん。JA直売所「あさつゆ広場」や地元スーパーなどに出荷しています。

女性農業者として自立
「農業者と消費者の距離を縮めていきたい」と話す笹尾さん。先輩農家や農作業の手伝いに来ている友人などにさまざまな意見をもらい、消費者ニーズが高い農産物を探りながら作物を育てています。



▲レタスの袋詰めをする笹尾さん

消費意欲が強い。農業と福祉の連携にも着手しています。昨年は、6月と11月に福祉施設の利用者を受け入れ、農産物の収穫や袋詰め作業などを一緒に行いました。農作業を通じて成功体験を重ねることで、利用者の方の自信につながってほしい。今後も受け入れを継続していきたい」と話します。

また、消費者に生産現場を知ってもらうとSNSを活用、野菜の生育状況や農業経営で苦労しているところを積極的に発信しています。

- ・農福連携のHPを作成中です。

ひらつか農福連携



取り組み紹介

農業と福祉の連携によって 障害者を農業の担い手に！

平塚では、神奈川県、平塚市、JA湘南、湘南NPOサポートセンターが連携して、農福連携マッチング等支援事業に取り組んでいます。

農福連携とは、障がい者等が農業分野で活躍する事で、働きがいや生きがいを醸成し、社会参画を実現する取り組みです。

このホームページでは、現時点での農福連携の取り組みを紹介します。

令和5年1月時点で、次の団体等が農福連携に取り組んでいます。

●農業：9農家・団体 ●福祉：6団体

また、連携を希望している人同士のマッチングがしやすくなるよう、農業分野の誰がどんな働き手を求めているのか、福祉分野の誰がどんな仕事を求めているのか、お互いの情報を知ることが出来るようなホームページにしていきます。

農福連携が目指しているもの

現在、農業と福祉の両分野で「働き手」についての課題がありますが、【農業の働く場】と【障がい者の労働力】を結びつけることにより、双方の課題を解決することを目指しています。

8 振り返り及びアドバイス

- 情報収集は、適材適所から。今回、各農家の実情をよく知るJA湘南の職員からたくさんの情報をいただき大変助かりました。
- 農家や福祉関係の方がコーディネーターになっていると、各々その分野についてイメージが持てるため動きやすいと思われる。
- 性急に就労に就かせることより、トライアルをしながら利用者さんの適性を見極めてマッチングすることの大切さがわかってきた。
- フォーラム+スタディーツアーの実施により市内外に農福連携への関心がより高まってきた。また、関係者のネットワークが深まり情報が集まりやすくなってきたため、令和5年度の事業に期待ができる。また市社協や神奈川県社会福祉士会等との連携・協力によって更なるマッチングも期待できそうである。農福連携の輪が広がって来ていることを実感している。
- 多くの方に農福連携を知ってもらうには啓蒙活動は大変重要であることが分かった。今後もいろいろな形で情報発信していきたい。
- ▼これまで、福祉サイドからの就労のニーズが多いと思っていたが、現在、農家さんのニーズが高まっている。今後は、障がい者支援団体の方からの情報を丁寧に聴き適正に応じたマッチングができるようにしていきたい。
- ▼福祉作業所間のネットワークがまだ十分でないことが分かった。今後、障がい福祉課や社協等と連携し、スムーズかつ正確な情報を得られるよう連携を深めていきたい。
- ▼20名の方がコーディネーターになっていたが、まだその人材を活かせていない。コーディネーターに掛かる負担とやりがいの両立を目指したい。